

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 23 年 12 月 7 日  
東京電力株式会社

## <タービン建屋地下のたまり水の処理>

高濃度の放射性物質を含むたまり水の処理設備及び貯蔵設備の状況

### [処理設備]

- ・6/17 20:00 放射性物質除去装置の本格運転を開始。
- ・6/24 12:00 淡水化装置(逆浸透膜型)における処理を開始。
- ・6/27 16:20 循環注水冷却を開始。
- ・8/7 16:11 蒸発濃縮装置の本格運用を開始。
- ・8/19 19:33 第二セシウム吸着装置(B系ライン)を起動し、セシウム吸着装置および除染装置との並列運転によるたまり水の処理を開始。19:41 定常流量に到達。

### [貯蔵設備]

- ・6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

## トレンチ立坑・各建屋地下のたまり水の移送状況

号機	排出元 移送先	移送状況
2号機	・2号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)]	・11/30 18:03~ 移送実施中
3号機	・3号機タービン建屋 集中廃棄物処理施設[プロセス主建屋]	・11/15 9:25~ 12/5 10:31
6号機	・6号機タービン建屋 仮設タンク	・12/7 移送予定なし

移送先	移送先の水位状況 (12/7 7:00 時点)
プロセス主建屋	水位: O.P.+ 2,253 mm(水位上昇累計:3,470 mm) 12/6 7:00 から 111 mm 下降
雑固体廃棄物減容処理建屋(高温焼却炉建屋)	水位: O.P.+ 1,342 mm(水位上昇累計:2,068 mm) 12/6 7:00 から 61 mm 下降

- [3号機]・12/6 10:00 ~ 12/7 8:54 復水貯蔵タンクからタービン建屋地下への溜まり水の移送を実施。  
12/7 9:19 頃 同タンクの残水の塩分濃度を下げるため、水張りを開始するも、その後、同タンクに繋がっているホース接続部より水の漏れを確認(約5リットル)したため、9:52 頃、水張りを停止し、水の漏れいの停止を確認。今後、補修等の措置を検討予定。  
放射性物質除去処理および淡水化処理済みの水。

## トレンチ立坑・タービン建屋・原子炉建屋の水位 (12/7 7:00 時点)

	トレンチ立坑	タービン建屋	原子炉建屋
1号機	O.P. < + 850mm (12/6 7:00 と同じ)	O.P.+ 3,601mm (12/6 7:00 から 34 mm 上昇)	O.P.+ 4,082mm (12/6 7:00 から 13 mm 下降)
2号機	O.P.+ 2,862mm (12/6 7:00 から 21 mm 下降)	O.P.+ 2,880mm (12/6 7:00 から 21 mm 下降)	O.P.+ 3,008mm (12/6 7:00 から 18 mm 下降)
3号機	O.P.+ 3,217mm (12/6 7:00 から 31 mm 上昇)	O.P.+ 2,983mm (12/6 7:00 から 36 mm 上昇)	O.P.+ 3,203mm (12/6 7:00 から 40 mm 上昇)
4号機	-	O.P.+ 2,972mm (12/6 7:00 から 30 mm 上昇)	O.P.+ 2,987mm (12/6 7:00 から 39 mm 上昇)

## <放射性物質のモニタリング>

### 海水核種分析結果(参考値)

採取場所	採取日	採取時間	濃度限度比(倍)		
			ヨウ素-131	セシウム-134	セシウム-137
福島第一 5,6号機放水口北側約 30m	12/6	8:40	ND	0.04	0.03
福島第一 1~4号機放水口南側約 330m	12/6	8:20	ND	0.06	0.05
小名浜港沖合約 3km(下層)	12/5	6:30	ND	ND	0.01

- ・その他、福島第一原子力発電所沿岸 2 地点(12/6 採取分)、沖合 7 地点(12/5 採取分)における主要 3 核種(ヨウ素-131、セシウム-134、137)は全て N D。

<使用済燃料プールの冷却> (12/7 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中(8/10 11:22~)	15.5
2号機	循環冷却システム	運転中(5/31 17:21~)	18.9
3号機	循環冷却システム	運転中(6/30 18:33~)	16.1
4号機	循環冷却システム	運転中(7/31 10:08~)	23

[2号機]・12/7 4:17 使用済燃料プール循環冷却システムにおいて、一次系ポンプの出入口の流量差が大きいことを示す警報が発生し、当該システムが自動停止。

4:41 現場確認したところ、漏えい等の異常は確認されなかった。現在、原因等を調査中。なお、使用済燃料プール温度は18.4 (4:00 時点)で、予想される温度上昇は0.3 /hであるため、温度上昇の観点からは十分な余裕がある。

[4号機]・11/29~ 使用済燃料プールの塩分除去のため、イオン交換装置の運転を開始。

<原子炉压力容器への注水・原子炉の状況> (12/7 11:00 時点)

号機	注水状況	給水ノズル温度	原子炉压力容器下部温度	原子炉格納容器圧力
1号機	淡水注入中 (給水系:約4.4 m <sup>3</sup> /h)	43.7	44.8	119.2 kPaabs
2号機	淡水注入中 (給水系:約3.0 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約4.1 m <sup>3</sup> /h)	71.6	70.8	115 kPaabs
3号機	淡水注入中 (給水系:約2.0 m <sup>3</sup> /h, 炉心スプレイ系:約6.0 m <sup>3</sup> /h)	60.3	67.1	101.6 kPaabs

[1号機]・12/7 10:55~11:26 窒素封入の信頼性向上のため、窒素封入ラインへの流量計および圧力計の設置作業を実施。同作業に伴い、窒素封入を停止したが、短時間の停止であるため問題ないものと考えている。

・1~3号機において、窒素封入設備が停止した場合に、原子炉压力容器内の水素が可燃限界に達するまでの時間の余裕を確保する観点から、原子炉压力容器への窒素封入量を上げる操作を実施。なお、2号機は压力容器ガス管理システムにより水素濃度が可燃限界に達する時間には十分余裕があることを確認できていることから、原子炉格納容器への窒素封入量を下げる操作を実施。

[1号機]・12/7 13:15 原子炉压力容器内への窒素封入量を10 m<sup>3</sup>/hから15m<sup>3</sup>/hに調整。

[2号機]・12/7 14:16 原子炉压力容器内への窒素封入量を10 m<sup>3</sup>/hから13m<sup>3</sup>/h、原子炉格納容器への窒素封入量を26m<sup>3</sup>/hから20m<sup>3</sup>/hに調整。

[3号機]・12/7 10:52 原子炉压力容器内への窒素封入量を10 m<sup>3</sup>/hから15m<sup>3</sup>/hに調整。

[4号機][5号機][6号機]特に変化なし。

<その他>

・10/7~ 伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的として、5,6号機滞留水浄化の水を利用し、散水を継続実施中。

・12/6 2号機原子炉格納容器ガス管理システムの気体のサンプリングを実施。その後、分析の結果、原子炉格納容器ガス管理システム入口でXe-135が検出限界値(1.1×10<sup>-1</sup>Bq/cm<sup>3</sup>)未満であり、再臨界判定基準である1Bq/ccを下回っていることを確認。

以上